

令和5年度 江戸川区立小岩第一中学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	自主性に富んだ生徒を育てる 責任を持って行動する生徒を育てる 健康で情操豊かな生徒を育てる	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	みんなが幸せになれる学校 次代の社会の担い手となる生きる力を身に付けた生徒 学校経営参画意識をもって職務を遂行し、教育目標の達成に努める教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt; 新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見られない状況でも、感染予防や状況を鑑みながら学校公開など地域や保護者の参観ができ、保護者や地域の理解を深めることができた。また、自己肯定感を育てる行事等においても、教育課程を見直しながら教育活動を継続することができた。</p> <p>&lt;課題&gt; 昨年度まで中止となっていた教育活動や地域の活動が今年度から実施され始めるにあたり、昨年度まで培った工夫や対策を活かしながら計画を立て、組織的な運営を実践していく。家庭と地域と学校がさらに一体となって、開かれた教育課程の実現を目指す。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・家庭学習の推進に向け「江戸川っ子study week」を取り組む ・放課後補習事業者による放課後補習教室の効果的な活用 ・校内研修「ICT機器を利用した各教科の指導と充実」を実践、iPadを活用した授業力を向上	・各学期に1週間「江戸川っ子study week」とし、家庭学習の計画を立て自主的な学習習慣を身に付ける ・英数ともに放課後補習を150回程度実施、CD層を40%台にする ・アンケート「iPadの効果的な活用」項目で肯定的な意見を70%とする	A	B	・都の調査の「授業で「できた」「わかった」と感じる」項目で肯定的な意見が85%に達した。 ・進路指導部からの呼びかけを徹底し、放課後補習教室の参加生徒が増加している。	B	・国の学力調査では都の平均とあまり変わらない状況であるが、昨年度と比較すると数学が少し上がり、国語が少し下がっている。結果を分析し改善を期待する。	・教科ごとに学力調査を分析し、授業改善や家庭学習の取組に生かしていく。 ・研究授業でICT機器の活用を取り上げ、さらに共通実践を図っていく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・発達段階に適した探究的な学習として、読書科の年間授業数の確保と読書科コンクールを実施 ・小岩図書館司書による書籍の充実	・探究的な学習を通して、読書科を各学年年間35時間実施する ・読書科コンクールを実施し、成果物を作成する	B	B	・各学年、ビブリオバトルを行い、主体的な学びができた。 ・図書館司書による書架整理が進んでいる。	B	・学校公開で、ビブリオバトルについての一部参観ができてよかった。	・SDGsを学んでいくことで、探究的な学習を深めていく。 ・本の紹介を充実させ、興味関心を広げていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	・年間指導計画に基づき補助運動を実施 ・河川敷や近隣の小学校の協力を得て、体育の授業や部活動を実施	・都体力調査の項目「50m走」を0.1[s]短縮し都の水準を達成する ・運動部に関して、部活動指導員や地域の力を活用する	B	B	・校庭はないが、6月には体力測定を実施できた。 ・近隣の小学校のプールを借り、水泳授業を継続できた。	B	・部活動だけでなく、水泳授業も小学校の施設を借り、実施できたことは良かった。	・校庭がないことで、制限がかかるが、工夫して可能な限り実践を減らさない。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルーム(EC室)の活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・オリバラ講演など、障がい者理解の講演会や体験活動を実施 ・EC室の多機能化、SCやSSWなど関係諸機関との連携を強化 ・副籍交流の実施し、共同学習に取り組む	・校内委員会(特別支援)を年35回以上実施、情報共有を強化 ・EC室を教育相談以外にも居場所づくりとしての役割を持たせる ・特別支援学校と連携し、副籍交流3回実施	B	B	・校内委員会(特別支援)を1学期15回実施し、情報共有が図れている。 ・学校サポート教室や児童相談所と連携、ケース会議を実施。 ・副籍交流として学芸発表会への参観を計画中。	B	・外国籍の日本語指導が必要な生徒が増えている状況を理解している。多文化共生の取り組みもさらに必要になってくるだろう。 ・ユニバーサルデザインの取り組みも進めてほしい。	・特別支援教育の校内委員会を定期的に継続実施していく。 ・EC室利用の見直しを行い、充実を図っていく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・hypoer-QU、個人面談の活用 ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化	・hypoer-QU調査やいじめ調査を実施し、いじめや非行傾向などの早期発見、早期解決を図る ・多様な居場所づくりとして、学校サポート教室など関係諸機関と連携 ・SCとSSWの連携を取り、教育相談の機会を充実	・保護者アンケートで「相談環境」に関する項目において肯定的な意見を75%とする ・1年生全員対象にSC個別面談、ヤングケアラーの個別面談を実施 ・年30日前後のSSWとSCの連携を図り、家庭への助言支援を図る	B	B	・hypoer-QU調査やいじめ調査を実施、早期発見に生かしている。 ・1年生全員対象にSCによる個人面談、担任によるヤングケアラー個人面談を1学期に実施。 ・居場所づくりにEC室を利用し、校内別室指導支援員を配置。	B	・健全育成のため民生児童委員など地域からも応援していきたい。 ・校内別室指導員の配置で教室が入れなくても登校できる生徒が増えることと良い。	・スクールカウンセラーだよりの発行や教育相談に関する情報を生徒や保護者に周知徹底を図る。 ・学校サポート教室など関係諸機関の連携を強化していく。
地域に広く開かれた学校の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	・学校生活を学校ホームページに随時更新 ・土曜授業以外にも、講演など参観を呼びかける	・学校HPのアクセス数を年10万回を達成する ・学校公開年4回の他、学年毎の講演など保護者に参観する機会を増やす	A	A	・9月時点でHPへのアクセス数を約5万回達成。 ・宿泊学習など保護者が参観できない活動をHPで伝えられた。	A	・ほぼ毎日の記事更新をされており、学校の様子がよくわかる。今後も継続してほしい。	・授業の様子だけでなく、お知らせについても掲載し、取組を積極的に発信していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会の開催 ・保護者向けのアンケートを実施 ・生徒向けのアンケートを実施	・学校評議員に行事以外にも通常の授業を参観する機会を増やす ・学校関係者評価は中間と最終の2回HPにて掲載	B	B	・授業見学後に学校評議員会を実施、学校経営方針を説明した。 ・運動会などの行事にも地域の方の参観ができた。	B	・改築のため自校の校庭で運動会はできないが、近隣の小学校で実施できたことは大きな成果である。	・年末には、保護者向けと生徒向けアンケートを実施し、年度末反省に生かしていく。
特色ある教育の展開	<生徒憲章(生徒自ら策定)の具現化> ・生徒の活躍する機会の充実	・生徒会中心に生徒が主体的できる活動を励行する ・仮設校舎での制限の中、何ができるか生徒と教員とともに考える	・地域のボランティア活動や地域のコンクール募集を推奨する ・生徒アンケートで「生徒会や学級活動での積極的な参加」の項目において肯定的な意見を90%とする	A	A	・地域まわりのボランティア活動への参加が70名以上となった。 ・身なりなどのルールを生徒会で話し合い、生徒会本部役員が全校生徒へ周知した。	A	・たくさんの生徒が地域のためにボランティア活動に参加してくれている。今後も中学生が地域貢献として活動してくれることを期待したい。	・今後もボランティア活動を呼びかけ推進していく。 ・生徒会活動が活発になるよう、生徒主体の活動を増やしていく。